

# 東海第二原発 医療現場の避難計画

---

患者は安全に避難できる？



TOMORO

さよなら原発いばらきネットワーク 中山弘子

# 本日は報告したいこと

原発事故から、入院患者が**安全に避難し、治療を継続できる**計画できない。

情報公開請求で公開された県立病院の避難計画から見えるもの→原子力災害時の避難計画は作れない

茨城県立中央病院

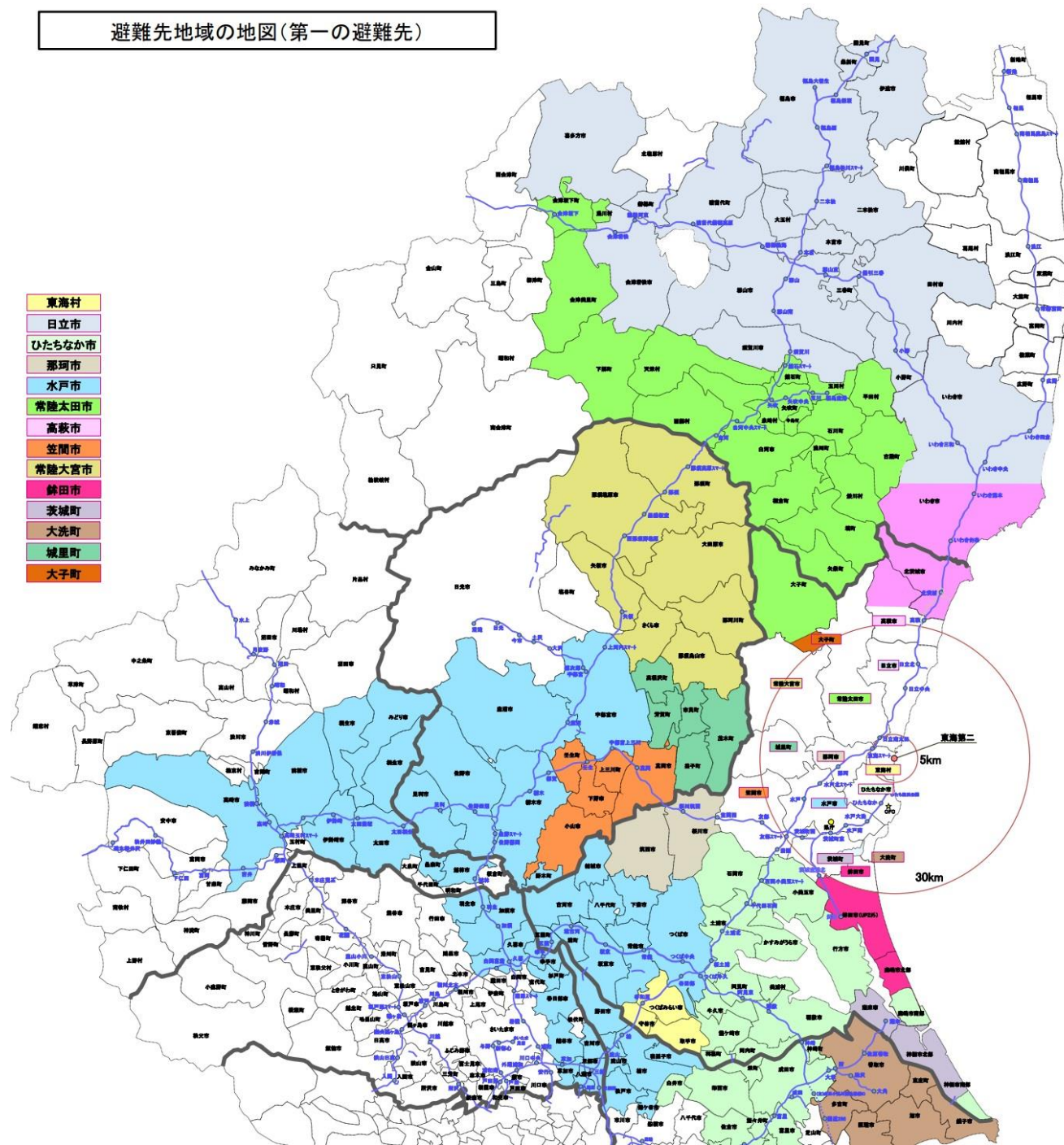
茨城県こころの医療センター



TOMORO

# 避難先地域(第一の避難先)

1. この広い避難先の中で
2. 入院患者、介護施設入所者はどこに避難するのか
3. 茨城県が指定をした病院、介護施設に避難する計画です。病院は機能別になっているので、治療を継続するには同機能の病院への避難が必要です。例えば高度急性期、救急、透析など





# 茨城県立 中央病院

概要	令和元年実績
標榜科	標榜診療科（36科） がんセンター
病床数	500床（一般475結核25）
入院患者数	395人/日
外来患者数	1006人/日
病床利用率	82.5%
手術件数(手術室)	3,811件/年
救急車搬送患者数	4,378人/年
駐車場	約500台

職員数(R3.4月)	916名
医師	133
研修医	26
歯科医師	3
看護師・准看	517
助産師	23
看護助手	5
薬剤師	34
放射線技師他	32
臨床検査技師	34
臨床工学技士	19
管理栄養士	9
調理員	0
リハビリ技師	28
医療相談員など	8
事務	32
その他	13



# 茨城県立中央病院の避難計画①-対応組織

## 原子力災害発生・対策本部設置

	担 当 業 務
総務班	災害対策本部立ち上げ/職員参集状況確認・連絡・各災害対策班との調整 県庁及び各行政機関との調整
情報収集班	原子力事故の情報収集、原子力災害対策本部から命じられた情報収集、電子カルテ対応、記録
物品調達班	薬剤、衛生材料、消耗品、資材の調達及び確保、各種燃料の調達・確保、持出品の確認、避難先施設で使用する物資、機材の輸送
患者庶務班	入院患者の避難先の管理及びリストの作成、入院患者の家族等への連絡
ライフライン班	施設被害状況の確認、医療ガス、ボイラー、エレベーター等施設の点検及び復旧 自家発電装置の操作、貯水槽、重油等燃料危険物の産量調査及び安全確認、外気の遮断、火の元確認
食糧供給班	食糧、飲料水の調達及び確保、備蓄食料の配布
交通整理班	救急車及び車両の調達確保、駐車場整理、事件事故防止等の治安維持
患者対策班	入院患者への情報伝達、安全確認、入院患者の避難準備、誘導、避難中の入院患者のケア、外来患者への情報伝達、安全確認、外来患者の帰宅・避難誘導
放射線管理班	空間放射線量モニタリング、職員及び入院患者の被ばく線量の評価、敷地内、建物内放射線量調査、立ち入り禁止区域の設定、外来患者の被ばく線量のトリアージ及び除染、輸送中の放射線量測定

# 茨城県立中央病院の避難計画②-入院患者避難

避難先病院(5病院)：各病棟ごとに同一の避難先となるよう受入患者数を考慮

避難患者数		同行者					
		医師	看護師	臨床工学士	放射線技師	その他	事務
軽症者(独歩患者)	100名	13名	79名	0	7名	28名	12名
中等症患者(護送患者)	163名	40名	163名	0	11名	45名	19名
重傷者(担送患者)	140名	108名	280名	16名	10名	41名	15名
新生児・未熟児	2名	2名	4名	0名	1名	0名	1名
計	405名	163名	526名	16名	29名	114名	47名

1. 患者の想定は平成29年度の最多入院日の患者数から按分
2. 医師は軽症8人/1人、中等症患者4人/1人、重症者1.3人/1人程度とし按分
3. 看護師は軽症1.2人/1人、中等症患者1人/1人、重症者1人/2人程度とし按分
4. 臨床工学技士は呼吸器等の管理から重症者で按分
5. 放射線技師、その他の職種は患者数で按分

# 茨城県立中央病院の避難計画③-移動手段

必要車両台数	
福祉バス(車いす)	83台
大型バス	11台
乗用車	2台
救急車	141台
トラック	5台
計	242台

施設保有車両台数	
福祉バス(車いす)	0台
大型バス	0台
乗用車	4台
救急車	1台
トラック	0台
計	5台

1. 重症者は救急車利用、患者1人、医師1人、看護師1人、技士1人
2. 中等症者は車いす搬送の福祉バス、患者2人に医師1人、看護師2人
3. 軽症者は独歩可能の大型バス、患者、医師、看護師、その他の職種、事務で40人程度乗車
4. トラックは、資機材運搬用として各避難先病院に1台

# 茨城県立中央病院の避難計画④-移動手段

施設保有車両で不足する場合は、県に連絡する

県調達車両台数	
福祉バス(車いす)	83台
大型バス	11台
乗用車	0台
救急車	140台
トラック	5台
計	239台

入院患者の避難に必要な資機材	
車いす	163台
ストレッチャー	140台

1. ストレッチャーでの移動が必要な重症者、車いす移動の中等症者(護送患者)用の、救急車も車いすが入る福祉車両も、ストレッチャーも車いすも準備されていません。  
→日常的に必要なありませんから、どこの病院でも持っていません。





茨城県立  
 こころの医療  
 センター病院

概要	令和元年実績
標榜科	精神科・児童精神科 心療内科・神経内科
病床数	276床
入院患者数	216.5人/日
外来患者数	276.9人/日
病床利用率	78.4%

職員数(R3.4月)	272名 (+会計年度 50名)
医師	26(10)
研修医	(2)
看護師・准看	180(7)
助産師	
看護助手	1(10)
薬剤師	5
放射線技師他	2
臨床検査技師	6(7)
管理栄養士	2
調理員	0
リハビリ技師	10
精神保健福祉士	13(2)
事務	17(10)
その他	3(2)

# 茨城県立こころの医療センターの避難計画①-対応組織

## 原子力災害発生・対策本部設置

	担 当 業 務
総務班	災害対策本部立ち上げ/職員参集状況確認・連絡・各災害対策班との調整 県庁及び各行政機関との調整
情報収集班	原子力事故の情報収集、原子力災害対策本部から命じられた情報収集、電子カルテ対応、記録
物品調達班	薬剤、衛生材料、消耗品、資材の調達及び確保、各種燃料の調達・確保、持出品の確認、避難先施設で使用する物資、機材の輸送
患者庶務班	入院患者の避難先の管理及びリストの作成、入院患者の家族等への連絡
ライフライン班	施設被害状況の確認、医療ガス、ボイラー、エレベーター等施設の点検及び復旧 自家発電装置の操作、貯水槽、重油等燃料危険物の産量調査及び安全確認、外気の遮断、火の元確認
食糧供給班	食糧、飲料水の調達及び確保、備蓄食料の配布
交通整理班	救急車及び車両の調達確保、駐車場整理、事件事故防止等の治安維持
患者対策班	入院患者への情報伝達、安全確認、入院患者の避難準備、誘導、避難中の入院患者のケア、外来患者への情報伝達、安全確認、外来患者の帰宅・避難誘導
放射線管理班	空間放射線量モニタリング、職員及び入院患者の被ばく線量の評価、敷地内、建物内放射線量調査、立ち入り禁止区域の設定、外来患者の被ばく線量のトリアージ及び除染、輸送中の放射線量測定

# 茨城県立こころの医療センターの避難計画②-入院患者避難

避難先病院(6病院)：患者は病棟単位で移動

避難患者数		同行者				
		医師	看護師	精神保健福祉士	その他	事務
1-1病棟(急性期)	36名	4名	28名	2名	5名	3名
1-2病棟(身体合併)	39名	2名	28名	2名	4名	3名
1-3病棟(児童)	30名	4名	24名	1名	4名	3名
1-5病棟(医療観察)	16名	2名	24名	2名	4名	4名
2-1病棟(亜急性期)	31名	2名	24名	1名	4名	3名
2-2病棟(急性期)	38名	4名	28名	2名	4名	3名
2-3病棟(慢性)	50名	2名	24名	2名	4名	3名
計	240名	20名	180名	12名	29名	22名

# 茨城県立こころの医療センターの避難計画③-移動手段

必要車両台数	
福祉バス(車いす)	13台
大型バス	13台
乗用車	7台
救急車	0台
トラック	7台
計	40台

施設保有車両台数	
福祉バス(車いす)	0台
大型バス	0台
乗用車	9台
救急車	0台
トラック	0台
計	9台

1. 2-1病棟患者は全員車いす用の福祉車両。
2. その他の患者は大型バスとし患者+スタッフで1台40人程度乗車とした。
3. トラックは、資機材運搬用として各避難先病院に1台用意した。

# 茨城県立こころの医療センター病院の避難計画④-移動手段

施設保有車両で不足する場合は、県に連絡する

県調達車両台数	
福祉バス(車いす)	13台
大型バス	13台
乗用車	0台
救急車	0台
トラック	7台
計	33台

入院患者の避難に必要な資機材	
車いす	39台
ストレッチャー	0台

1. 2-2病棟38人分の福祉バスと車いす、すべてを県から調達



## 県立中央病院・こころの医療センターの避難計画から見えること

- ◆全体を網羅した形で作成されています。
- ◆しかし救急車、福祉バス(福祉車両)、ストレッチャー、車いすは自前では用意できません。

**この状態はどこの病院にも当てはまること**

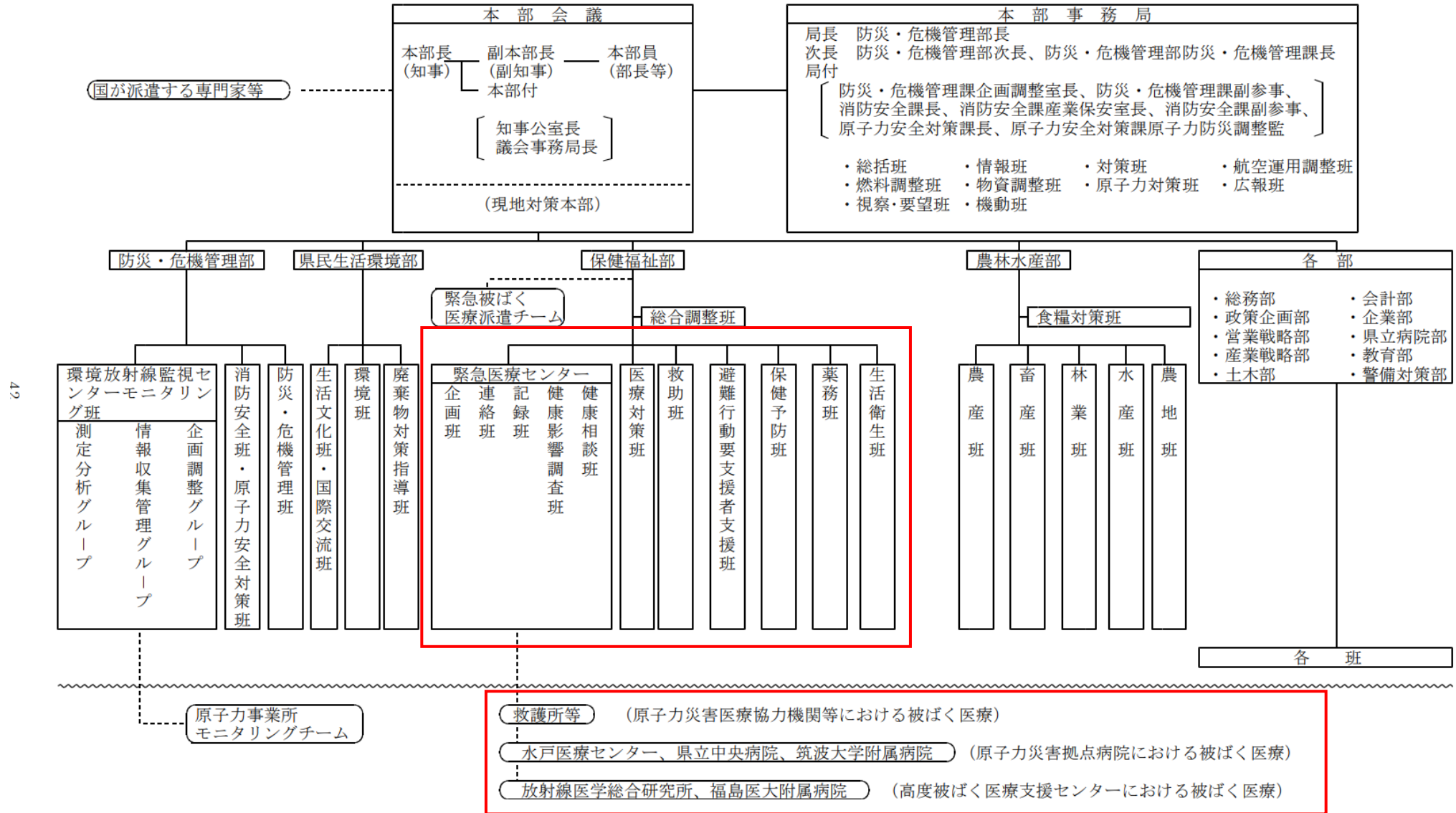
**病院機能すべてが避難をするのは原子力災害特有です。**

- ◆避難計画だけでは、医療を継続することはできません。  
病院のベッド稼働は約80%、受入る病院も大変！  
医療が思うように継続できないこともありえます。

- ◆地域防災計画との関係が分からない  
ほぼ全職員が避難、外来機能の維持は想定していない
- ◆災害時に県民の医療は誰が守るのか

# 茨城県地域防災計画(原子力災害対策計画編)

図3 茨城県災害対策本部組織図





## 避難計画策定状況

	施設数	策定済	未策定
病院 19床以下の診療所	119	39	80
入所型福祉施設	486	280	206

**病院の避難計画策定が進まないのは作らないのではなく、作れない！**

患者を安全に避難させるために必要な救急車やストレッチャーなどの手配ができないのに、避難計画が策定済とは言えない